

昭和のやまぐち～昭和39年東京オリンピックのころ～

来年、東京で2度目のオリンピックが開催されます。今回は昭和39年（1964年）に行われましたが、山口県では、その前年に第18回国民体育大会（山口国体）が開催されており、2年続けての大きなスポーツ大会となりました。今回の展示では、当館所蔵資料から当時の様子をふり返ってみます

1. 防長路を駆け抜けた聖火

リレー隊は1区間ごとに正走者1名、副走者2名、随走者20名以内で構成され、1～2kmの距離を、胸にマークの入ったランニングシャツ（女子は半袖シャツ）、白パンツ、白運動靴という規定の服装で走りました。山口県では、9月18日から20日にかけて、147区間、3,381人が参加しました。全国でリレーされた聖火は、10月10日の開会式で最終ランナー・坂井義則の手により聖火台に点火されました。写真は周南市戸田付近です。「県政やまぐち 1964年10月号」（60企画255）

2. オリンピックの気運を高めるために

オリンピックの歴史や各競技のルール・見どころを解説した各種の啓発本が作られました。

「オリンピック読本（小学生のために）」（60国664）・「オリンピック読本（高等学校・青年学級向け）」（60国663）、「オリンピック早わかり」（平田豊彦48）、「オリンピック手帖」（平田豊彦48）

3. テレビ放送と受信機

高度経済成長期、白黒テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫が「三種の神器」ともてはやされ、さらにカラーテレビ・自動車・クーラーの3Cが「新三種の神器」と呼ばれました。

展示資料はオリンピック期間中の番組表です（朝日新聞：昭和39年10月6日）。白黒放送とカラー放送の別が書かれています。全国各地にカラーテレビ公開場所が設けられましたが、山口県では「ちまきや百貨店」がその場所となっています。「オリンピックまであと4日。その日のためにこの19型を」との見出しで掲載された受信機の広告に、当時の雰囲気が感じられます（和田敏英収集史料328-2・文書館図書780）。

4. 総天然色の公式記録映画

上は、東京オリンピック公式記録映画のしおりです。監督は市川崑で、「総天然色」と銘打たれた、当時としては珍しいカラー映画でした。下はその映画の特別鑑賞券です。上映期間は昭和40年3月20日～4月10日、場所は山口セントラル劇場となっています（入場料250円）。山口県教育委員会・山口県体育協会の推薦を受けています（和田敏英収集史料328-3・4）